

注意点1

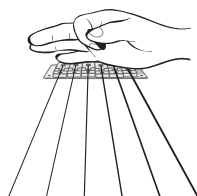


ミュートを駆使して アクセントをつけよう

ポール・ギルバートのギター・テクニクの大きな特徴としてアクセントが挙げられる。アクセントはギター・テクなのかと思う読者も多いと思う。しかし微妙なニュアンスを必要とし、さらにフレーズにメリハリや表情を付けられるアクセントは、上級テクニクの1つと言えるのだ。ポール流アクセントのポイントは、ハーフ・ミュート音とノン・ミュート音の差を利用しているところにある。このフレーズの場合、弦ごとに3種類の变化をつけていて、1つ目は低音弦でのブリッジ・ミュート、2つ目は3 & 4 弦でのハーフ・ミュート、3つ目は高音弦でのノン・ミュートとなっている(図1)。どんな状況でもポールがこのような弾いているわけではないが、このニュアンスを覚えて、フレーズにメリハリを付けられるようになろう。

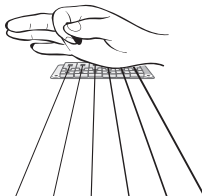
図1 ブリッジ・ミュートのかけ具合

5&6弦



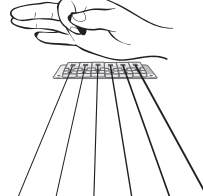
ブリッジ・ミュートを
しっかりとかける。

3&4弦



ブリッジ・ミュートを
少しかける。

1&2弦



ミュートは
まったくかけずに弾く。

注意点2



常に人差指と小指は 先の押弦を意識すること!

このフレーズでは、1小節ごとにコードがチェンジし、スキッピングの形も変化している。コードトーンの基本形は前項で紹介したものと同じだが、各小節の後半部分のパターンが少し違っているので注意しよう。写真は1小節目4拍目となっているが、3弦16フレットを小指で押弦すると同時に、人差指も1弦12フレットから3弦12フレットに移動させておくこと(写真①)。次に3弦16フレットをハンマリングしたと同時に人差指は1弦12フレットに瞬時に移動させよう。これが遅れてしまうと、スムーズなスキッピングができないぞ。このフレーズでは、1弦(人差指主体) & 3弦(小指主体)間の行き来が多数登場するが、すべてこのやり方で対応してもらいたい。慣れるまで同じ動きを何度も練習し、指に動きを覚え込ませよう。



① 小指による押弦。同時に3弦12fに人差指を移動させる。



② 小指によるハンマリング。同時に1弦12fに人差指を移動。



③ 小指によるブリッジ・ミュート。ストレッチ・フォームを保つこと。



④ 1弦12fを人差指で押弦。指先で2弦に触れてミュート!

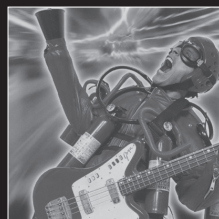
～コラム33～

地獄の戯れ言

レーザーX～MR.BIG～ソロ活動とポール・ギルバートは、世界中のギタリストに多大な影響を与え続けている。高速スキッピング・ブレイにも対応できるスピーディで非常に正確なピッキング力とフィンガリング力、そして独創性の高いフレーズ・アイデアなど、他の追随を許さない。あまりにも有名なので、ここではちょっと違った視点からポールを分析してみようと思う。日本でポールの人気が絶大なのは周知のとおりだが、彼が高崎晃フリースタイルの影響を受けて、彼のギター・スタイルには日本人好きなフレーズが満載である。また、ポールのフレーズは、どんなにテクニカルな内容でも、

ポール・ギルバートを叩き斬る!

キッチリとした符割りが多く、譜面に起こすと見やすくリズム的にも理解しやすい。それでポールのフレーズを簡単にコピーできるとは限らないが、グルーヴなどのフィーリングを重視したギタリストに比べるとコピーはしやすいのかもしれない。また、このようにポールのフレーズは非常にシステマチックなので、TVゲームを攻略するような感覚でコピーできるのではないと思う。ただ、多くのギタリストに弾いてみたいと思わせるフレーズを作り出せる彼のセンスはさすがで、彼の研究から生まれた斬新なアイデアが、ギター・キッズに夢を与えているのは間違いないだろう。



レーザーX
「スーパーヒーローズ」

新生レーザーXの第2弾。ポールを始め、テクニカルなメンバーがくり広げる究極の超絶プレイが聴ける1枚だ。